

大規模イベント等における 新型コロナウイルス感染症対策ガイド (東京2020大会を踏まえて)



	(頁)
1. はじめに	3
2. 基本的な感染症対策	4
3. 健康管理	5
4. 行動管理	8
5. 宿 泊	9
6. 飲 食	12
7. 会 場	14
8. 観客・メディア	16
9. パラスポーツにおける配慮事項	17
10. 陽性者発生時の対応／保健所との連携等	18
<参考>	
① 大会時の水際対策	21
② 大会時の検査体制	22
③ 大会時専用システム	23
④ その他汎用システム	24

1. はじめに

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」とする。）は、コロナ禍で行われた初のオリンピック・パラリンピックとなった。東京都・国・組織委員会は「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」を延べ7回開催し、専門家の意見も聞きながら、具体的な新型コロナウイルス感染症対策について議論し検討を行った。この検討を踏まえ、組織委員会はIOC・IPCと共に、大会関係者が守るべきルールとして「プレイブック」を取りまとめるとともに、関係者が一丸となって安全・安心な大会開催の実現に向け、様々な対策に取り組んだ。

こうした取組の結果、選手村や会場でのクラスターの発生や大会関係者から市中に感染が広がったという事例の報告はなく、全体として対策は有効であったと専門家からも評価を得られた。

本ガイドは、東京2020大会において実施された新型コロナウイルス感染症対策の事例やノウハウを踏まえ、今後の大規模イベント等開催の際の参考に資することを目的にまとめたものである。

令和4年3月

東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部運営課

2. 基本的な感染症対策

新型コロナウイルス感染症は、目、鼻、又は口に触れると、感染するリスクがあり、距離が近い場面で人から人に感染する。

混雑した場所、換気の乏しい環境では感染リスクが高まるため、以下の基本的感染症対策の周知・徹底を行うことが重要



<基本的な感染症対策に用いる物品の例>

種類	品目
消耗品	アルコール消毒液、ハンドソープ、マスク、ドライタオル、雑巾、除菌ペーパー、使い捨て手袋、靴底除菌用マット、スプレーボトル、ゴミ袋 など
備品	非接触温度計、飛沫防止板・飛沫防止シート、サーキュレーター、手指消毒液スタンド など
その他（待機列対応等）	フットサイン、ポール／ベルトパーテーション、案内サイン など

3. 健康管理

主催者は、体調不良となった関係者をいち早く把握し、新型コロナウイルス感染症の拡散を防ぐため健康管理を行うことが必要

確認項目（例）

当日朝の体温

平熱を超える発熱の発生

嗅覚（匂い）や味覚の異常

新型コロナウイルス感染症で陽性とされた人との濃厚接触（※）の有無

同居家族や身近な知人に感染が疑われる人の有無

咳、のどの痛みといった風邪の症状

だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）

身体が重く感じる、疲れやすい等の自覚症状の有無

政府から入国制限、入国後の健康観察が必要とされている国、地域への渡航歴の有無、又は当該対象者との濃厚接触の有無



※濃厚接触者は、新型コロナウイルスに感染していることが確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方を指す。（厚労省HPから引用）

▶主催者のみで全関係者の健康管理を行うのは困難。関係者に協力を仰ぎ確認する仕組み作りが重要であり、健康観察用アプリ等の活用も有効（参考：内閣官房のwebサイトにて健康観察用アプリを紹介 <https://corona.go.jp/health/>）

3. 健康管理

★コロナ対策責任者を中心とした、入国前～出国後の健康管理のフォローアップ体制の構築

※コロナ対策責任者…東京2020大会では「CLO(Covid-19 Liaison Officer)」として、所属組織毎に定められ、所属メンバーの行動管理等を行い、組織委員会や日本国内関係機関との連絡調整を行う役割を担った。

コロナ対策責任者の基本的な役割

所属メンバーに新型コロナウイルス感染症対策のルールが浸透するよう徹底

イベント期間中（海外からの渡航者については出発前も）定められた対策が実践されているか確認

主催者、日本国政府（保健当局含む）に協力し、連絡窓口として対応

定められた検査を適切に受検しているか、また日々の健康管理が適切に行われているか監督

新型コロナウイルス感染症の陽性が確認した場合、関係各所へ直ちに報告し、対象者と連携し必要な対応を実施

保健所対応のサポート（陽性者との面談時、活動・行動の追跡、必要な書類の作成、多言語対応、濃厚接触者の特定等）

対策アプリ等の利用サポート

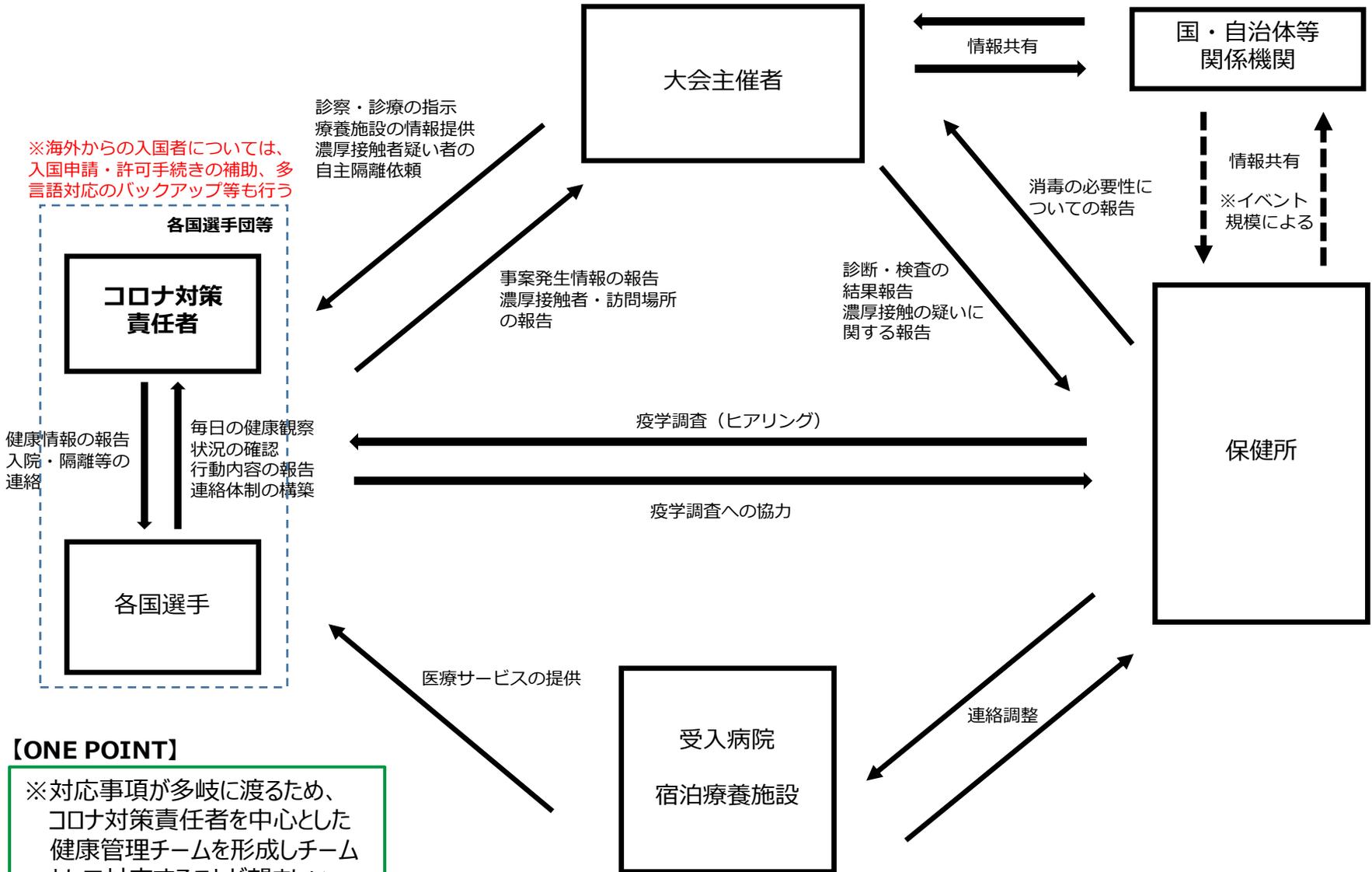


【ONE POINT】

▶ コロナ対策責任者の役割は非常に多岐に渡るため、分担して対応することが必要となり、複数人が望ましい

3. 健康管理

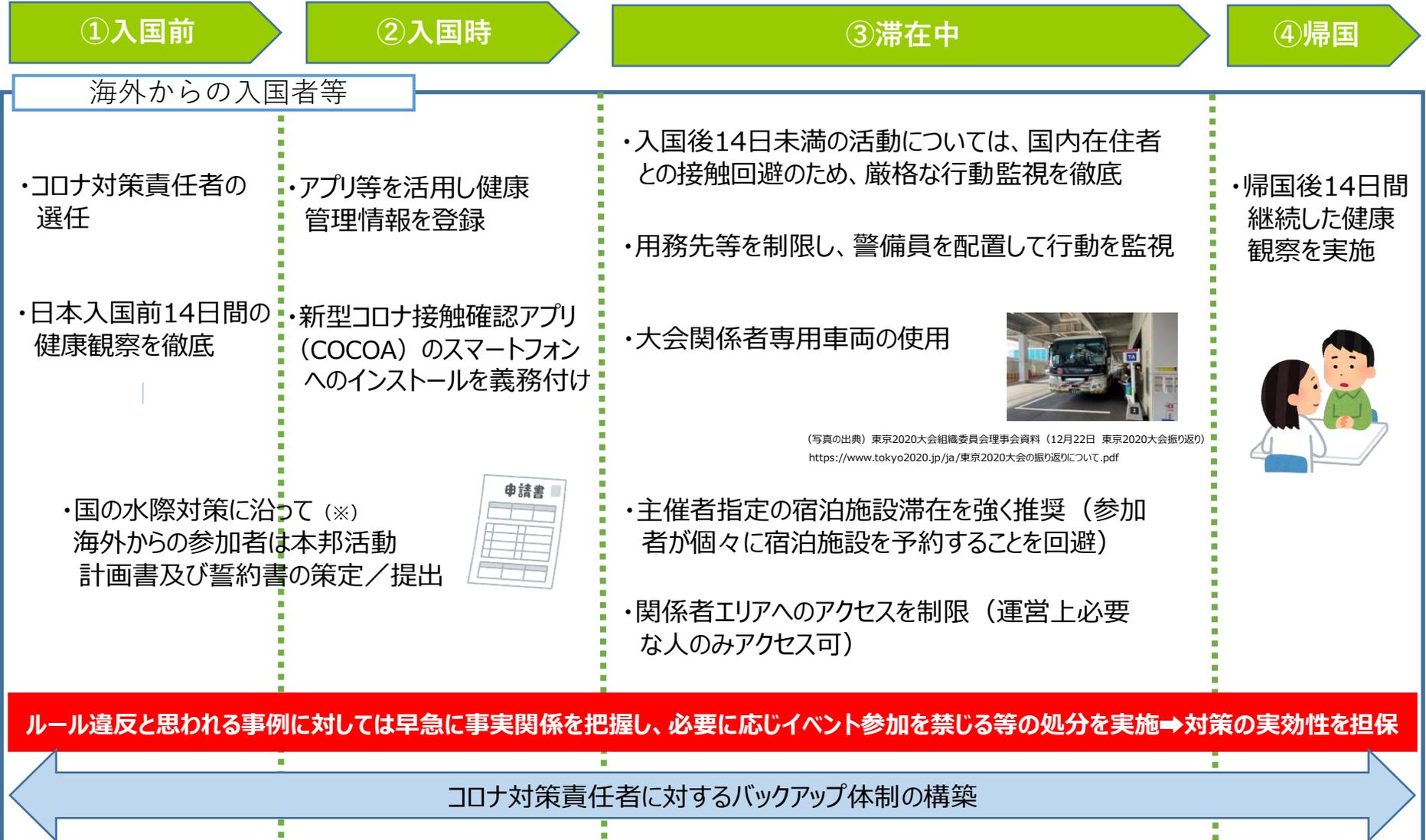
東京2020大会の健康管理体制を参考にしたスポーツイベントにおける関係者間の連携イメージ



4. 行動管理

主催者は、各行程において参加者等の徹底した行動管理を行い、市中へのウイルスの拡散を防止
東京2020大会での事例を参考に行動管理例を以下に記載

※感染状況によって国の防疫措置等が変更になる場合があるため注意（①大会時の水際対策（p.21参照））



国内の関係者等についても、海外の関係者等に準じるような厳格な対応を実施

5. 宿 泊

主催者は、宿泊施設の管理者と調整し、他の宿泊客との混交を避ける動線等を確保し、感染拡大を防ぐ

①滞在前の準備

- ・滞在者の動線を分離（出入口、通路、エレベーター・チェックイン・アウト場所）
- ・滞在フロアの一般客との分離
- ・専用車両の乗降場所確保
- ・手指消毒剤の準備
- ・警備・監視員の配置
- ・サインージによる注意喚起（多言語対応）

②チェックイン・アウト時

- ・専用のチェックイン・アウト（ツアーデスク（臨時））等場所の設定
- ・時差チェックイン・アウトの徹底（他の宿泊客等との混交を避ける）
- ・入館時の手指消毒徹底の呼びかけ
- ・非接触型体温測定装置の通過義務付け

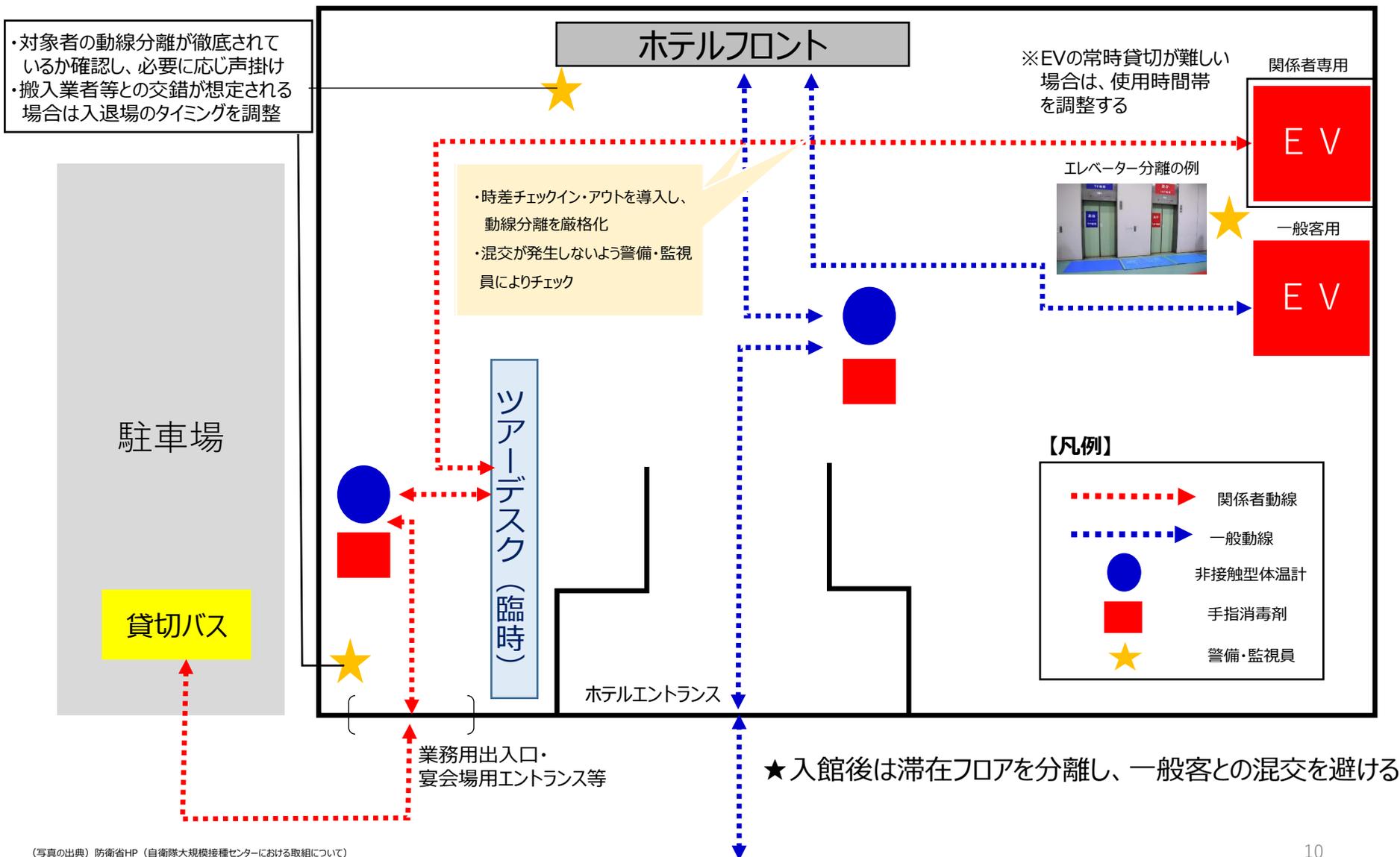


③滞在中

- ・備品共用の禁止、やむを得ない際は使用前後の消毒の徹底
- ・専用食事会場での食事、ルームサービス・部屋へのデリバリーの許可
- ・エレベーター利用時は密にならないよう注意喚起
- ・居室の定期的な換気の実施
- ・ドアノブ等接触頻度の高い箇所の定期的な消毒の実施
- ・館内放送による基本的感染対策の呼びかけ

5. 宿 泊

人の混交が避けられないエントランスのレイアウトイメージを東京2020大会の対策を参考に図示



5. 宿 泊

(参考) 東京2020大会時の宿泊施設での新型コロナウイルス感染症対策の実例



①専用乗降場の設置



②接触頻度が高い箇所の消毒



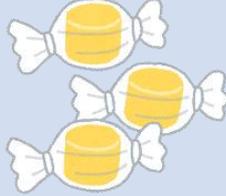
③警備・監視員の配置



④食事会場の席割り

6. 飲 食

感染症対策としては定食・弁当等の提供が望ましいが、多様な食習慣・宗教食に対応するためビュッフェ形式による食事提供を行う際の留意点を、東京2020大会での事例を参考に記載

食事場所の注意点	配膳・利用者側の留意点
<ul style="list-style-type: none">・食事場所の分散（密にならないような人数規模）・動線管理（入口・出口の分離）・滞在時間の制限（30分、1時間等）・ポールパーテーションの設置とフットサインの掲出・誘導員の配置（滞留防止の呼びかけ、待機列管理等）・混雑状況の可視化（デジタルサイネージ等）・アプリ等を用い、メニュー選択の時間短縮のため事前告知・6人掛けを4人掛けとするなど、フィジカル・ディスタンスを確保・各席にパーテーション（アクリル板）を設置・食事テーブルに手指消毒剤、除菌シートの設置・食事会場の換気の徹底・高頻度接触箇所の定期消毒の実施	<p><配 膳></p> <ul style="list-style-type: none">・エクスプレスライン（定食形式）の設置・使い捨て容器の使用・個包装製品の利用・サー빙スタッフ⇔喫食者間に仕切版設置・バット上にスニーズガードの設置  <p><利用者></p> <ul style="list-style-type: none">・時差喫食の実施・待機列整列時の意識的なフィジカル・ディスタンス確保・食事提供ラインにおける使い捨て手袋の着用・利用者の tong 使用禁止（スタッフによる盛り付け）・黙食の徹底

6. 飲 食

(参考) 東京2020大会選手村等における新型コロナウイルス感染症対策の実例



パーテーション等の設置状況①



パーテーション等の設置状況②



混雑状況を示すデジタルサイネージ



フットサイン・ポールパーテーションの掲出



個包装の食品の配布



配膳時のスニーズガード等

7. 会 場

主催者は、参加者等の会場内の行動を制限し、ウイルスの拡散を防止
東京2020大会における事例を参考に、アスリート・関係者（プレスを含む）を対象とした行動管理例を以下を記載

①会場出入口

- ・アスリート・大会関係者の出入口を分離、通行時間帯の変更
- ・待機列におけるフィジカル・ディスタンス確保の徹底
- ・非接触型体温計による検温（体調不良者の入場を制限）



非接触体温計設置の状況

- ・専用乗降場の設置



専用乗降場の状況

②競技場所まで

- ・体調不良者用の隔離場所の設置
- ・控室等での飛沫防止用アクリル板の設置
- ・タオル、ドリンクボトル等備品類の共用禁止
- ・飲食提供時の新型コロナウイルス感染症対策徹底（6.飲食（p.12,13参照））
- ・閉鎖空間における換気の徹底
- ・高頻度接触箇所（特にトイレ）の定期的な消毒



フットサインの掲出状況

③競技場所

- ・使用の都度競技備品を消毒
- ・競技終了後速やかに退去することを要請（滞留防止）



【ONE POINT】

★会場で陽性疑い者・濃厚接触疑い者がした場合に備え、搬送手段（陰圧タクシー等）を事前に確認しておくことが望ましい

（写真の出典）東京2020大会組織委員会理事會資料（12月22日 東京2020大会振り返り）
<https://www.tokyo2020.jp/ja/東京2020大会の振り返りについて.pdf>

【基本的対策の徹底】

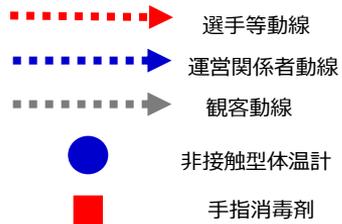
アスリートとの距離を2m以上確保することを要請（その他の関係者は1m）
競技やトレーニングを行うアスリート等を除き、マスク着用を徹底
フットサイン・サイネージ・アナウンスによる基本的感染症対策の呼びかけ（マスク着用・フィジカルディスタンス確保・衛生管理等）

7. 会場

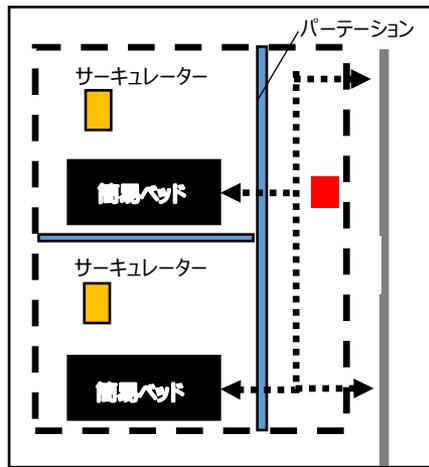
東京2020大会の対策を参考に、会場敷地内での観客・選手等・関係者の出入口・動線分離のイメージを記載

★会場内においては、基本的感染症対策を継続して徹底

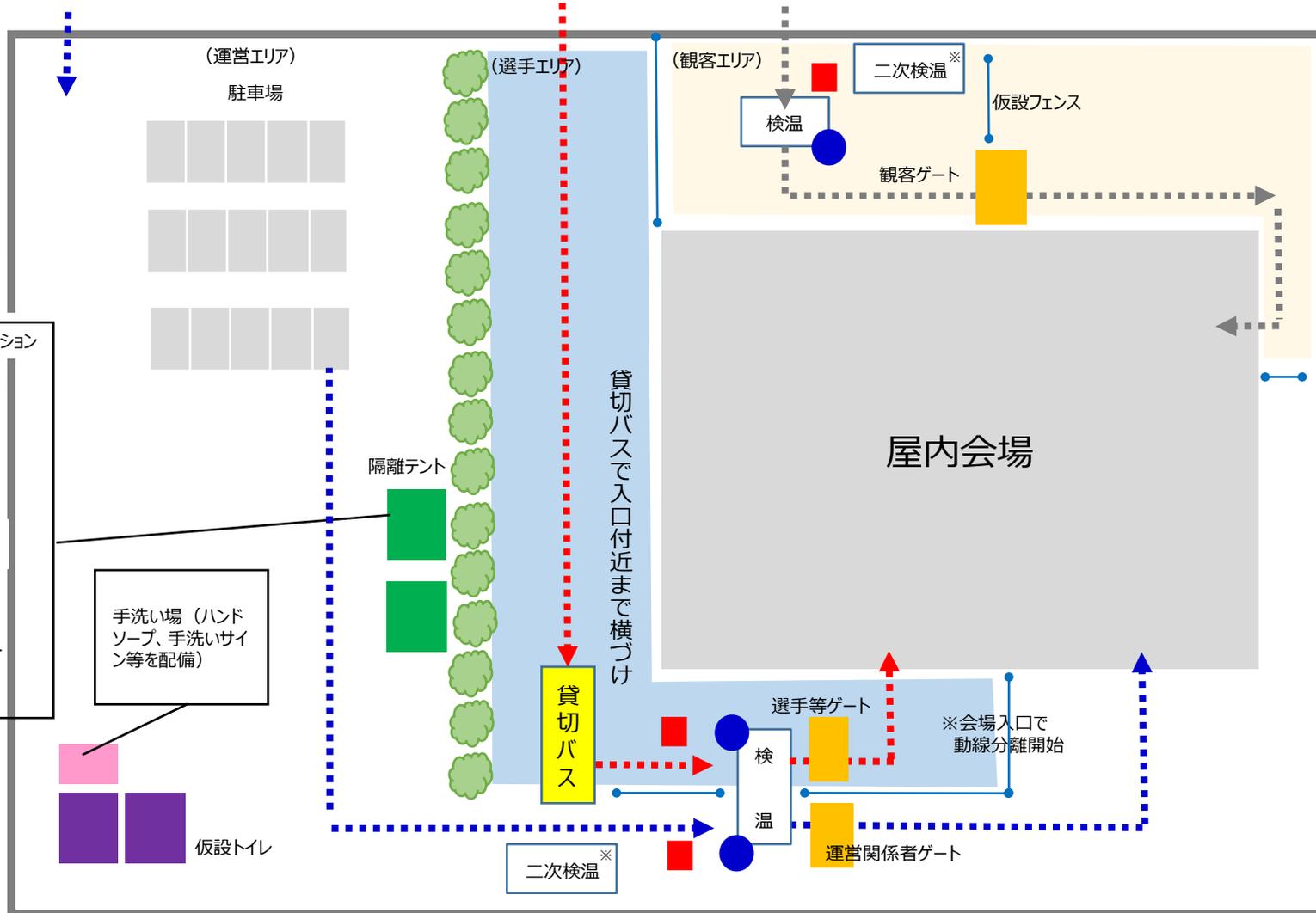
【凡例】



<隔離テント 拡大図>



体調不良者・発熱者を
会場に入れることなく隔離



※二次検温…発熱疑い者が発生した場合に行う再検温

8. 観客・メディア

主催者は、観客・メディア関係者に対し、必要な新型コロナウイルス感染症対策を周知徹底
以下東京2020大会での対策を参考に記載

観客の対策

観戦 2 週間前からの体温・体調チェックや、体調が悪い場合の来場自粛を要請

接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの使用に努めるよう周知

会場への「直行」、会場からの「直帰」、及び時差来場への協力を要請

競技会場内へのアルコール飲料の持ち込み、飲酒の禁止。またグループ飲食を控えるよう呼び掛け

騒ぐ・大声で会話する・大声や声（指笛等）を発するような応援等の飛沫感染リスクを高める行為を禁止

混雑が想定される場所では、フットサインの設置、スタッフによる待機列の誘導・整理等フィジカル・ディスタンスの確保

会場に入場する際に検温し、37.5度以上の場合は入場を制限。有症状の観客は、スタッフにより隔離場所に誘導

現場でのスタッフの呼びかけや、大型ビジョン・場内アナウンス・サイン等による基本的感染症対策の周知徹底

メディア関係者の対策

オンライン取材環境の整備

取材対応者の縮減を依頼（必要最低限の人数にすること）

インタビュー時間の制限（1メディア90秒以内等）

ブームマイク（長竿のような仕様のマイク）の使用を要請

使用機器の定期消毒・共用回避の徹底



(写真の出典) 東京2020大会組織委員会理事会資料（12月22日 東京2020大会振り返り）
<https://www.tokyo2020.jp/ja/東京2020大会の振り返りについて.pdf>

9. パラスポーツにおける配慮事項

障がいのある方の配慮事項の検討に当たっては、求められるニーズを主催者がよく聞き取り、対応に反映していくことが望ましい

競技時以外での留意点	競技における留意点
<ul style="list-style-type: none">・車いす等による移動の支援を行う場合、触れた場所等を除菌シート等で定期的に消毒すること・近距離での介助が必要な方に対しては、基本的な感染対策を徹底し、物理的接触を可能な限り抑えること・感染疑い発生時は、車いすの要否、介助の要否、日常生活のレベル等の支援の情報共有が必要となるため、コロナ対策責任者等を通じ事前集約すること・多くのパラアスリートは自立的に活動することが可能だが、肢体不自由の選手の手指消毒、知的障がいの選手のコミュニケーションなど、必要に応じてサポートを行うこと	<ul style="list-style-type: none">・競技において不可避となる発声・接触の機会等を除き、フィジカル・ディスタンスの確保、マスクの着用を徹底すること・補助器具等共用品に関する消毒作業を徹底すること・一人の介助者が複数人の介助業務を担うと、感染拡大リスクが増加するため、介助業務の分担を検討すること・感染症対応に精通したスタッフの配置等を検討すること 

10. 陽性者発生時の対応/保健所との連携等

主催者は、陽性者・濃厚接触者が発生した場合には、保健所や医療機関等との連携が必要となるため、事前・事態発生時に分け対応を検討しておく

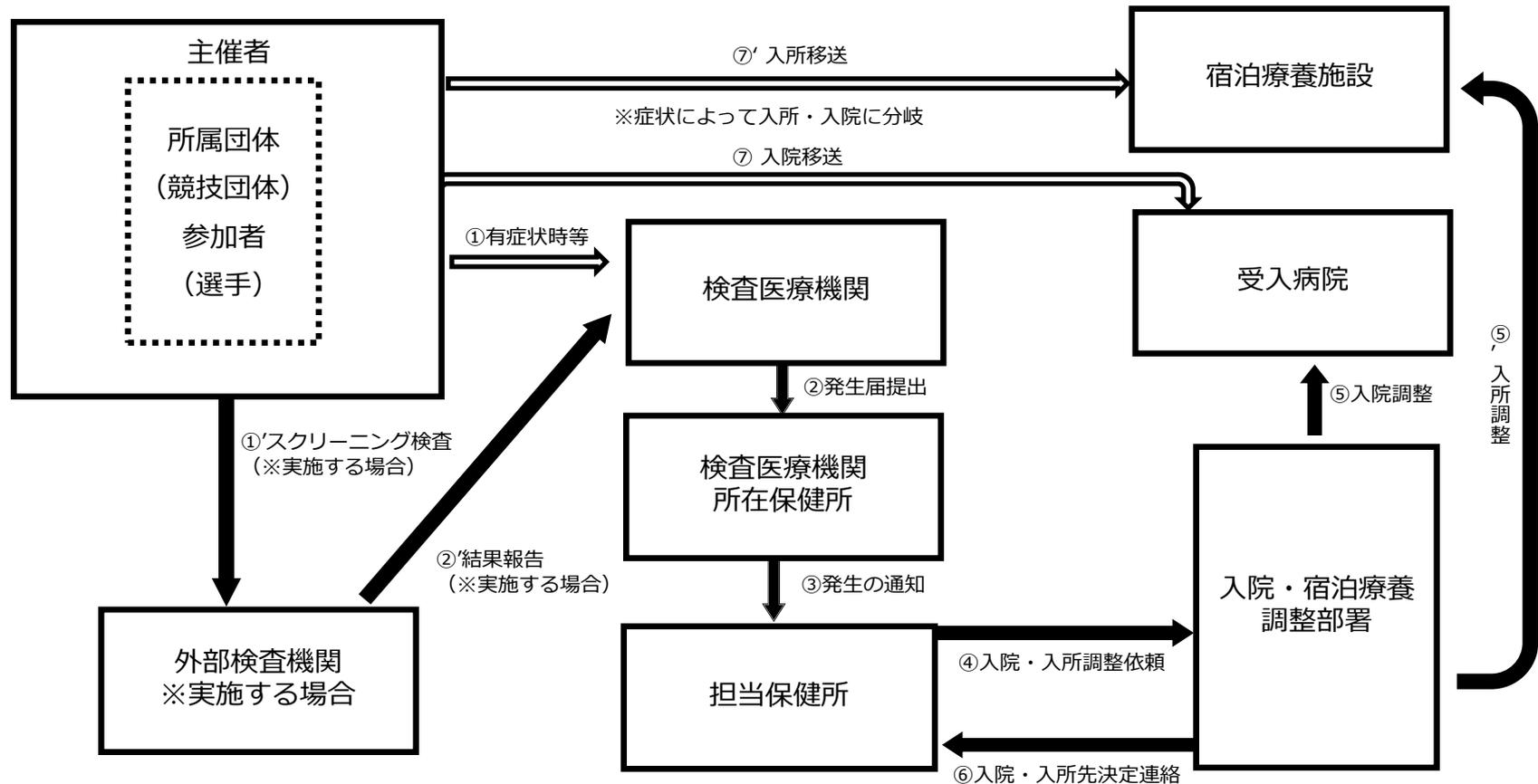
事前準備	陽性者・濃厚接触者発生時の対応
<ul style="list-style-type: none">・保健所等へのイベント情報の提供 →イベントの実施概要が決まったら、なるべく早めに関係する保健所（滞在地、検査医療機関等を管轄）へ情報を提供する。イベント期間、参加人数（国内、国外）、実施場所、提携先医療機関、宿泊場所、検査実施の場合の陽性判定機関など・濃厚接触候補者リストの事前作成 →行動を共にすることが多い関係者（団体競技の選手等）や、宿泊所で同部屋となる関係者などは、濃厚接触者になりうるので、名簿を作成しておくこと・宿泊療養施設の調整 →軽症者対応として用いる宿泊療養施設について、滞在先での隔離可否、公的な宿泊療養施設への入所について、保健所・関係機関等と協議しておくこと・受入病院の想定 →受診・入院先医療機関の候補を検討しておくこと・搬送手段の確保 →軽症時等救急車を使用しない場合、民間救急・陰圧タクシーといった宿泊療養施設等に搬送する手段や経費負担などを確認しておくこと	<ul style="list-style-type: none">・健康観察情報の提供 →健康情報（症状・発熱の有無等）を保健所に提供できるように準備しておくこと・積極的疫学調査のための情報提供 →保健所の積極的疫学調査支援のため、行動履歴の収集・交通機関の利用状況等の確認を行うこと・多言語対応の支援 →通訳手配等、入院入所時対応等コミュニケーション支援を行うこと・宗教食、アレルギー対応の支援 →ケータリング・差し入れ等入院入所者の個別の事情に合わせた食事支援を行うこと 

▶本文中の青字の記載については、主催者側で予め対応を検討しておくことが望ましい事項

10. 陽性者発生時の対応/保健所との連携等

主催者は、陽性者が発生した場合の情報の流れや陽性者の移動について、事前に保健所・医療機関等と協議し、下記のような対応フロー図を作成して共有しておくことが望ましい

(参考) 陽性者発生時の対応フロー



【凡例】

- ⇨ 陽性者の動き
- ➡ 情報の流れ

【ONE POINT】

▶ 陽性者発生時、入院や宿泊療養の速やかな調整のためには、上記フロー図のような関係機関の連携体制の明確化が必要

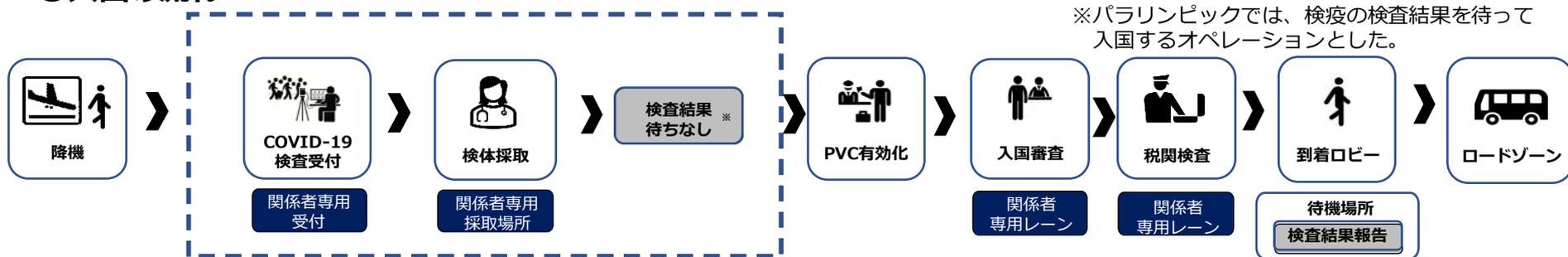
参 考 资 料

① 大会時の水際対策

【入国時】

- ・入国前14日間の健康観察の実施を徹底（症状がある場合は渡航を中止）
- ・国の水際対策上、入国後14日間の宿泊場所・用務先等を記載した「本邦活動計画書」を政府に提出させ、これが承認された者についてのみ、一定の隔離期間（14日間、3日間又は0日間の待機（※））の元に特別に入国を許可
- ・入国時、政府による本邦活動計画書の承認（OCHA：統合型入国者健康情報等管理システムも活用）、出国前の陰性証明等の確認を行い、検査を実施（※② 大会時の検査体制（p.22参照））
- ・大会関係者を他の入国者と交わらせない、いわゆるバブル形成の対応のため、動線の分離やスタッフによる誘導を実施

○入国の流れ



* 隔離期間について

- ・入国後3日間は自室で隔離
- ・ただし、以下を前提に入国後直ちに活動を行うことを可能とした
 - ・入国後3日間、毎日検査を実施し陰性であること
 - ・組織委員会の厳格な監督（3日間の監督者による帯同やGPSによる行動管理）の下で活動すること
- ・（入国後14日間自室で隔離という選択肢もあり）



【ONE POINT】

- ▶ 関係者の入国にあたっては、事業を所管する省庁と相談すること

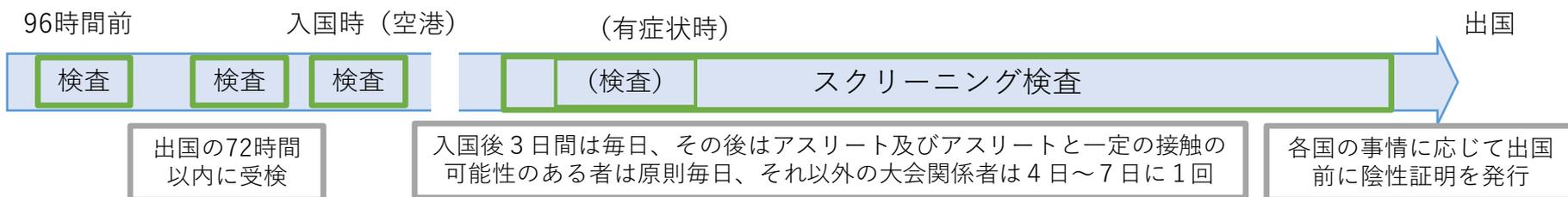
② 大会時の検査体制

- ・入国前に2回、入国時、入国後はアスリートは原則毎日、大会関係者は選手との接触頻度に応じて定期的に行うなど、徹底して検査を実施（その他有症状時、濃厚接触者発生時には追加で検査を実施）
- ・アスリート等の空港検疫検査や、スクリーニング検査で陽性又は不確定の判定が出た場合には、選手村内又は他の医療機関で鼻咽頭PCRによる確定検査を実施
- ・アスリートに濃厚接触者が発生した場合は、練習参加や試合出場の条件の一つとして、毎日の検査及び競技・練習参加 6 時間前の検査を実施
- ・出国に当たり、各国の事情に応じた出国前検査の実施及び陰性証明の発行



<入国までの検査の流れ>

<入国後の検査の流れ>

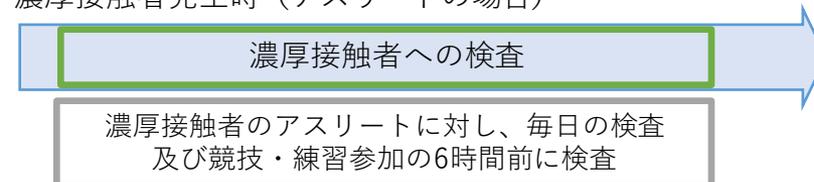


<参考>スクリーニング検査の頻度

対象者	オリ期間	パラ期間
アスリート等	毎日検査	
選手村に出入りするスタッフ※	4日に1回	毎日検査
プレス関係者等	4日に1回	
その他のスタッフ	7日に1回	4日に1回

※アスリートと定期的に接触する場合

濃厚接触者発生時（アスリートの場合）



変異株解析や唾液採取困難者(パラアスリート)への対応も実施
日本在住者も、入国後の訪日アスリート、大会関係者の検査の流れと同様に検査を実施

【ONE POINT】

▶ イベントの規模や内容によって、検査の可否や実施する場合は頻度・対象等を検討することが望ましい

③ 大会時専用システム

東京大会時新型コロナウイルス感染症対策のために開発されたシステムは以下のとおり（現在は運用終了）

●OCHA 統合型入国者健康情報管理システム

（Online Check-in and Health report App:OCHA）

出国前の健康状態の登録、搭乗前の質問票への記入、滞在期間中の健康情報の継続的な登録、帰国時の検査証明書の発行のサポート、さらに帰国後の健康状態のフォローアップ等を通じて、統合的な健康管理を可能とするスマートフォンアプリ



(出典) APPLION
(<https://applion.jp/android/app/jp.go.ocha.OCHAapp/>)

●東京2020感染症対策業務支援システム

（Tokyo 2020 ICON : Infection Control Support System）

本邦活動計画書の準備とアップロード、日々の健康情報の監視、スクリーニング検査の監視、症例管理のサポート等を一元的に行うシステム



(出典) 東京2020大会組織委員会資料 (12月22日 東京2020大会振り返り)

④ その他汎用システム

以下に現在も使用可能な汎用システムを記載

健康観察用アプリについては、内閣官房のwebサイトにて紹介している。 <https://corona.go.jp/health/>

●新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）：COVID-19 Contact-Confirming Application

利用者本人の同意を前提に、スマートフォンの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、お互いに分からないようプライバシーを確保して、新型コロナの陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができるアプリ
(詳細は <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000772029.pdf> 参照)



(出典) 厚生労働省HP
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000772029.pdf>)

●新型コロナワクチン接種証明書アプリ

日本政府が公式に提供する新型コロナワクチン接種証明書（予防接種法に基づき各市町村で行われた新型コロナワクチン接種の事実を公的に証明するもの）を電子的に取得できるアプリ
(詳細は <https://www.digital.go.jp/policies/posts/vaccinercert> 参照)



(出典) デジタル庁HP
(<https://www.digital.go.jp/policies/posts/vaccinercert>)

●東京版新型コロナ見守りサービス

都立施設で新型コロナのクラスターが発生した場合に、施設の訪問履歴に基づき利用者 に迅速に感染情報を通知する仕組み。アプリのダウンロードが不要な「都立施設入館システム」とLINE「新型コロナ対策パーソナルサポート」から選択し、施設入口に掲示してあるQRコードをスマートフォン等のカメラで読み取ることで手軽に行うことができる
(詳細は <https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/mimamori.html> 参照)



(出典) 東京都HP
(<https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/mimamori.html>)

●TOKYOワクションアプリ

TOKYOワクションのLINE公式アカウントを友だち登録した上で、本人確認書類と接種記録の画像をアップロードすることで、アプリに接種記録を登録でき、接種記録の登録後、アプリに表示される「接種記録登録済み」の画面を提示することで、接種済みであることを示すことができる。また、接種記録の登録後、アプリから協賛企業や都が提供する様々な特典に応募できる
(詳細は <https://tokyo-vaction.jp/> 参照)



(出典) TOKYOワクション公式サイト (<https://tokyo-vaction.jp/>)